2019年度

上期決算説明会資料

2019年11月14日

株式会社 メイコー
（証券コード：6787）

注意事項

本資料には過去の事実以外に今後の業績予想等・戦略が含まれますが、本資料は金融商品取引法の開示情報ではありません。

これらの予想は過去の事実ではなく、現時点で当社が把握できる情報で判断した想定及び所見で作成したものです。

特に電子回路基板業界では原材料価格の変化、多様な顧客市場動向、技術動向の変化、為替変化、税制・諸制度の変更、自然災害、国際紛争、その他、様々なリスク・不確実性があり、実際の実績は予想と異なることがあります。

1	2019年度上期実績
2	通期見通し
3	技術ロードマップ

2019年度上期 決算ハイライト

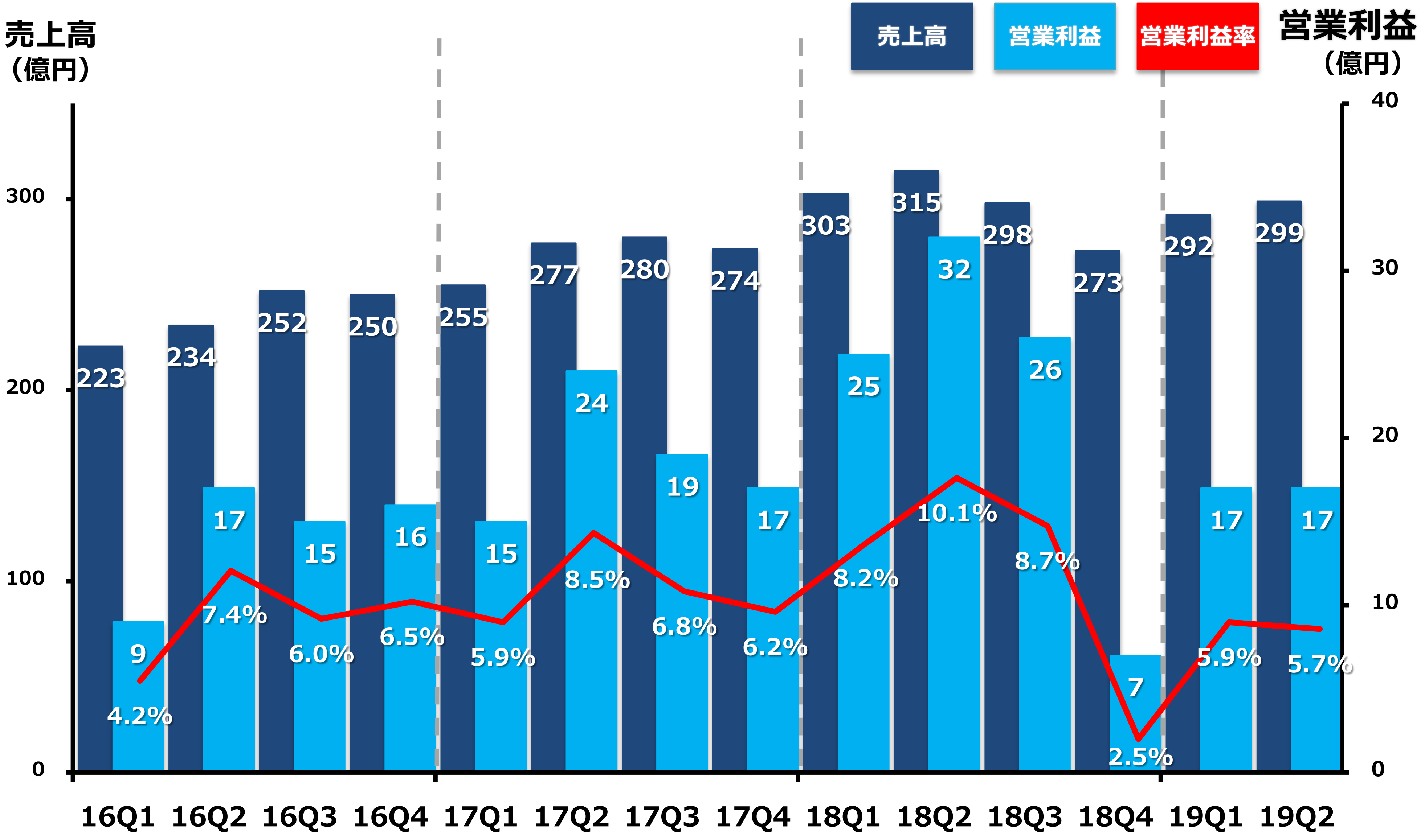
売上	●売上は、前年比27億円減の591億円 ・車載は前年比2.6%増の274億円 ・スマートフォンは前年比23.8%減の147億円 ・その他分野は前年比7.6%増の170億円
利益	●営業利益は、前年比23億円減の34億円 ●経常利益は、前年比33億円減の30億円 ●当期純利益は、前年比29億円減の24億円

2019年度上期 連結実績

（単位：億円）

	2018年度上期実績	2019年度上期実績	前年比	
			増減額	増減率
売上高	618	591	-27	-4.3%
営業利益	57 9.2%	34 5.8%	-23	-39.9%
経常利益	63 10.2%	30 5.1%	-33	-52.4%
当期純利益	53 8.6%	24 4.0%	-29	-55.6%
期中平均為替レート（円/USD）	110.64	108.66		

売上高と営業利益推移



売上高
（億円）
売上高
営業利益
営業利益率
営業利益
（億円）
300
200
100
0
40
30
20
10
0
223
234
252
250
255
277
280
274
303
315
298
273
292
299
9
17
15
16
15
24
19
17
25
32
26
7
17
17
4.2%
7.4%
6.0%
6.5%
5.9%
8.5%
6.8%
6.2%
8.2%
10.1%
8.7%
2.5%
5.9%
5.7%
16Q1 16Q2 16Q3 16Q4 17Q1 17Q2 17Q3 17Q4 18Q1 18Q2 18Q3 18Q4 19Q1 19Q2

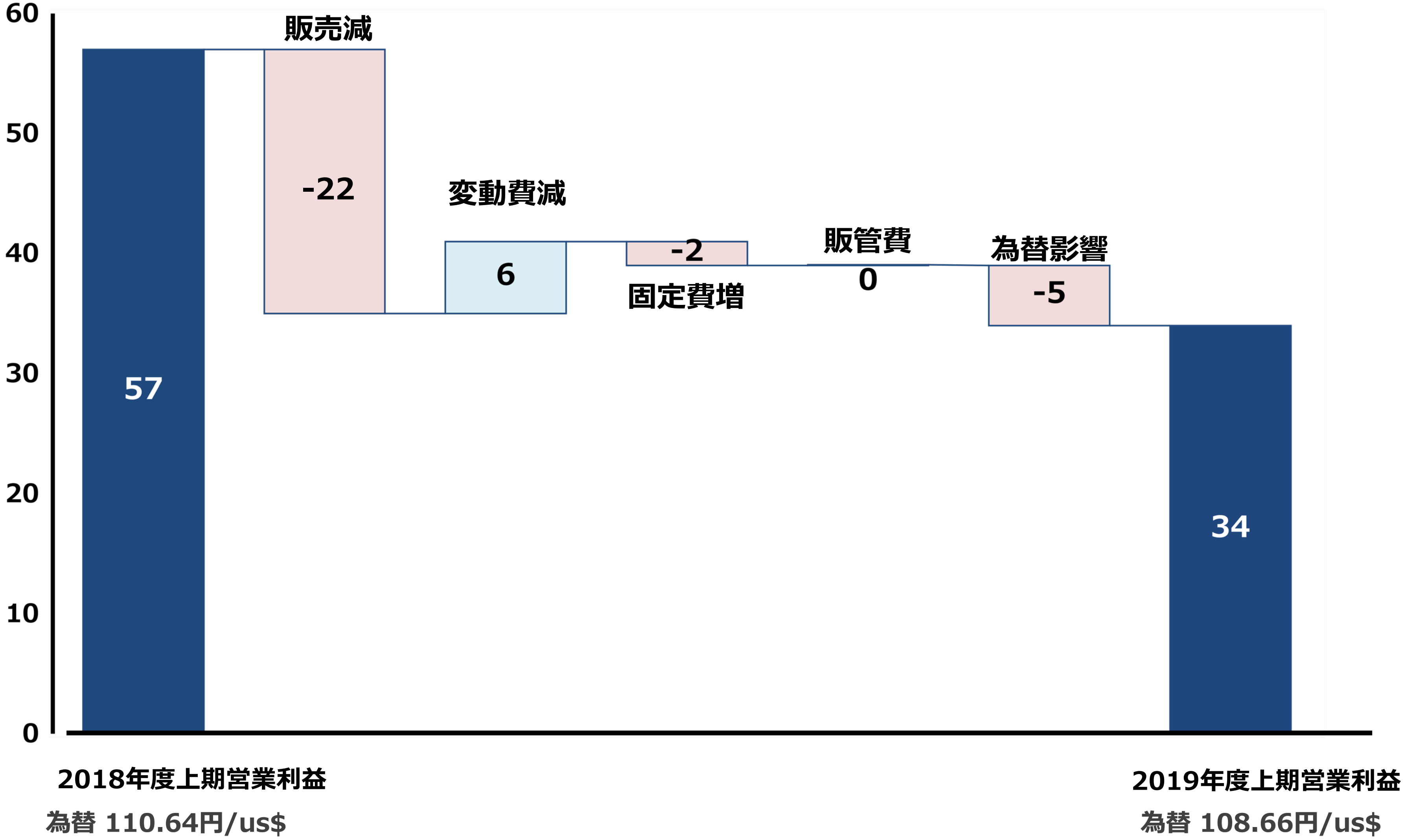
2019年度上期 製品別収益

（単位：億円）

	2018年度上期		2019年度上期		前年比	
	売上	営業利益 営業利益率	売上	営業利益 営業利益率	売上 伸び率	営業利益 伸び率
車載	267	19 7.1%	274	15 5.5%	7 2.6%	-4 -21.1%
スマートフォン	193	29 14.5%	147	14 9.5%	-46 -23.8%	-15 -51.7%
その他	158	9 5.9%	170	5 2.9%	12 7.6%	-4 -44.4%
合計	618	57 9.2%	591	34 5.8%	-27 -4.3%	-23 -39.9%

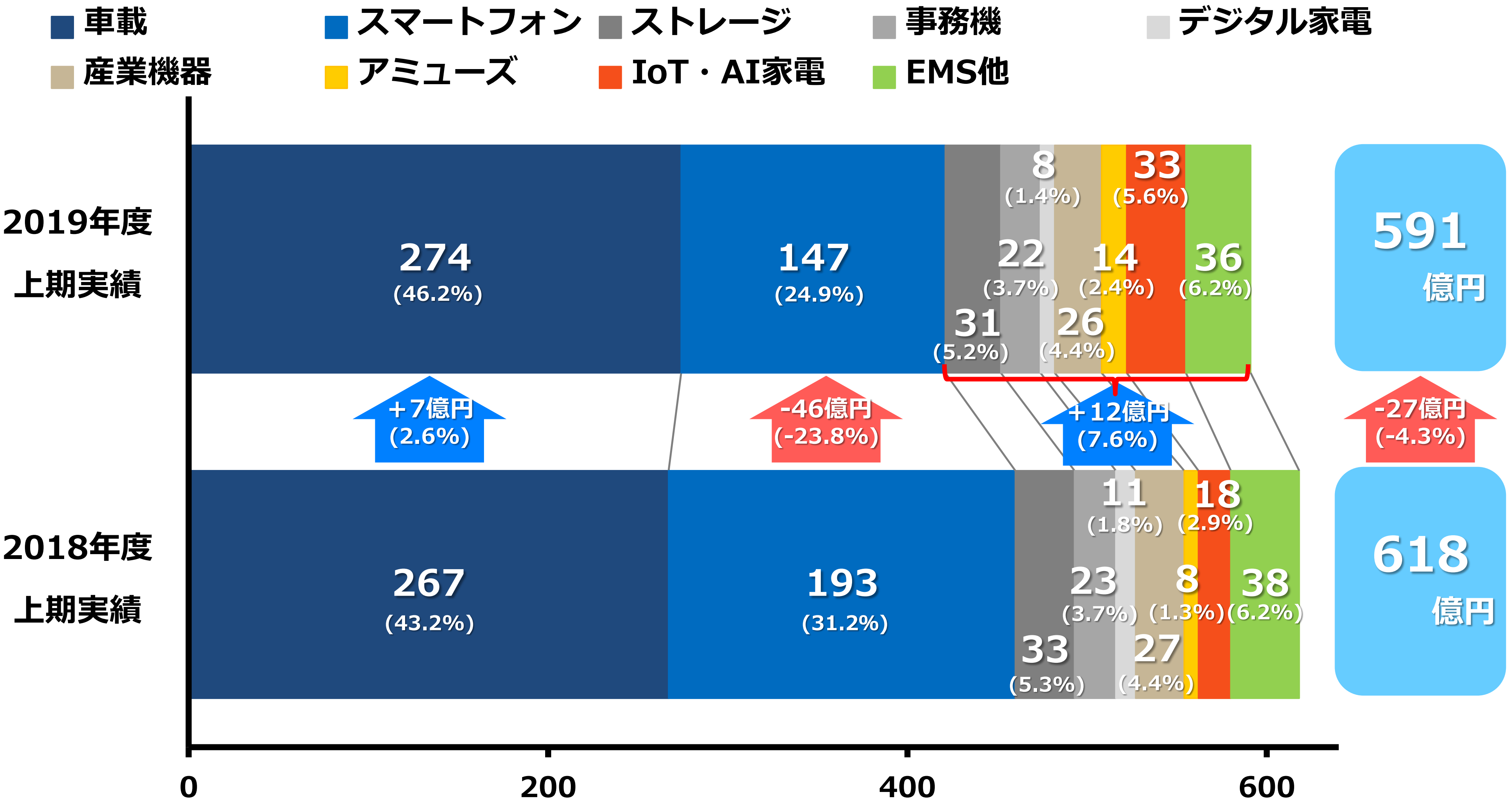
営業利益増減分析 ～ 2018年度上期➡2019年度上期

（単位：億円）



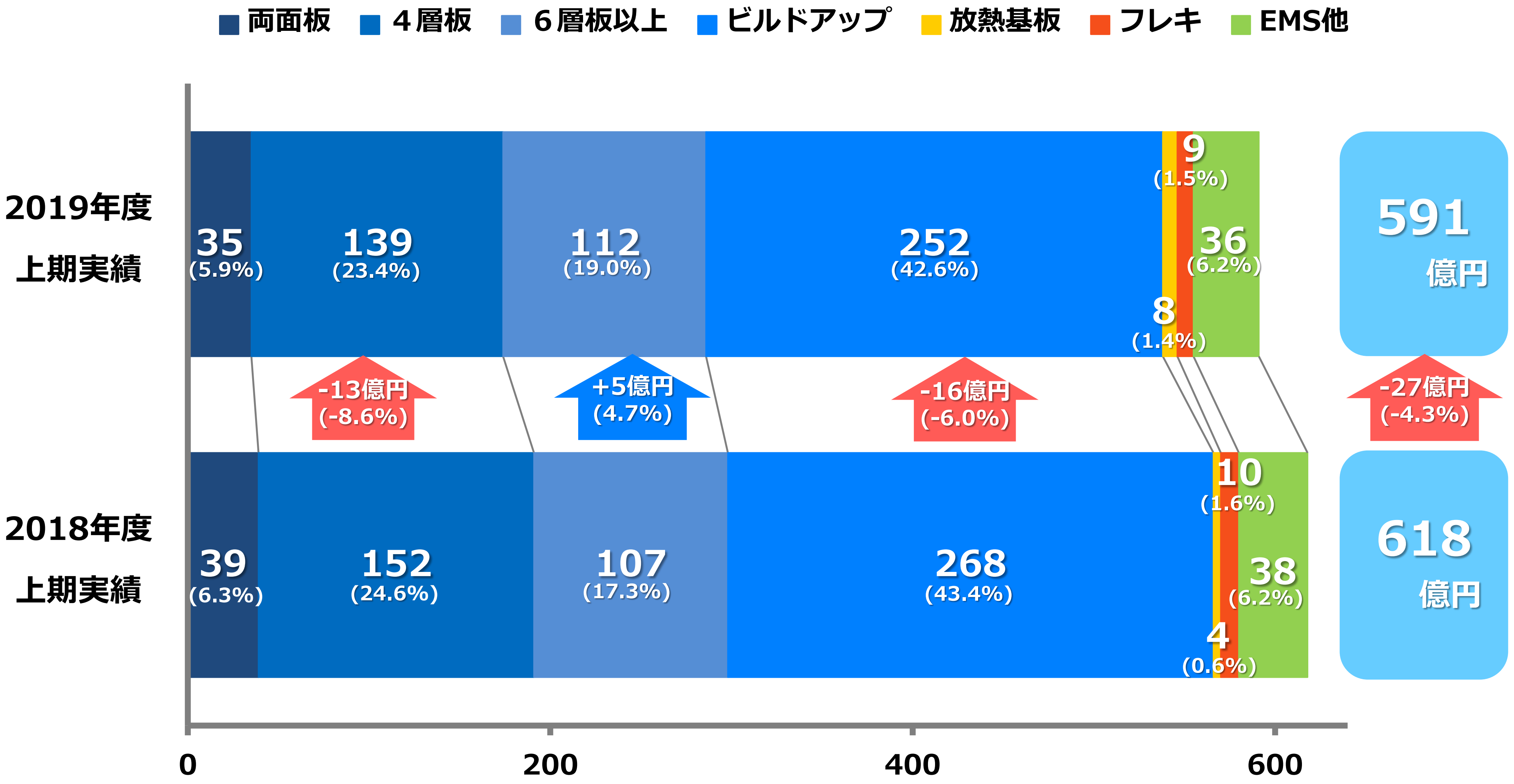
2019年度上期 商品別販売実績

（単位：億円）



2019年度上期 仕様別販売実績

（単位：億円）



1	2019年度上期実績
2	**通期見通し**
3	技術ロードマップ

下期の展望

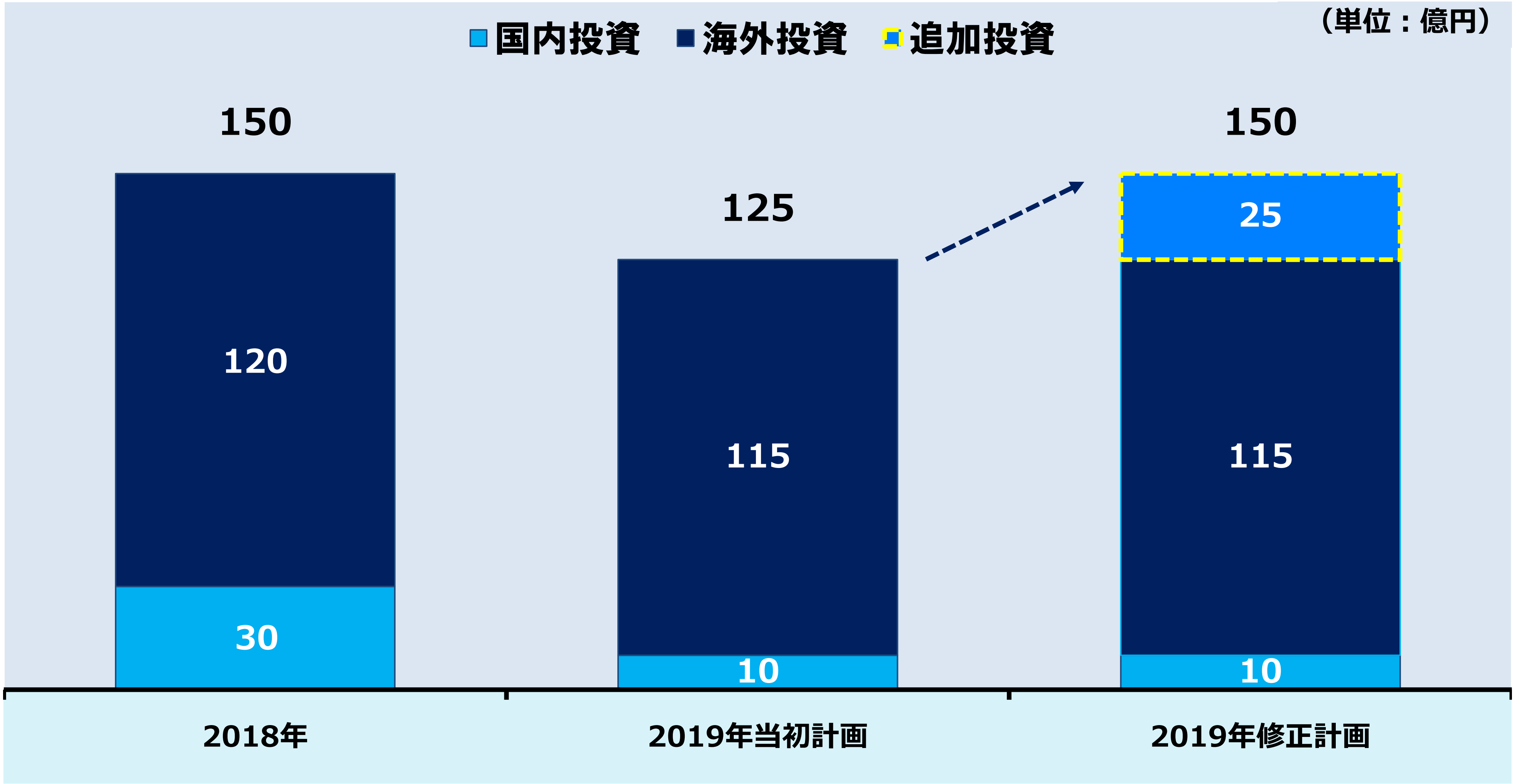
概要	・車載は、上期並みで推移する ・スマートフォンは、上期並みで推移する ・その他は、IoT/AI家電・EMSが伸びる
投資	・ベトナム第１工場は、EMSとフレキの投資を行う ・ベトナム第２工場は、車載専用工場とする投資を行う ・ベトナム第３・タンロン工場は、5Gの先行投資を行う

2019年度 連結業績予想

（単位：億円）

	2019年度 予想	2019年度 上期実績	2019年度 下期予想
売上高	1,200	591	609
営業利益	75 6.3%	34 5.8%	41 6.7%
経常利益	63 5.3%	30 5.1%	33 5.4%
当期純利益	53 4.4%	24 4.0%	29 4.7%
期中平均為替レート（JPY/USD）	111.00	108.66	108.00

投資計画



償却額	64	68	68

ベトナム　工場戦略

スマホ
5Gスマホ
車載開発品

第3工場　MSAP･車載開発品

高周波モジュール

メイコー十和田ベトナム　EMS

タンロン工場　高周波モジュール

5Gモジュール
スマホ

第2工場　車載専用工場

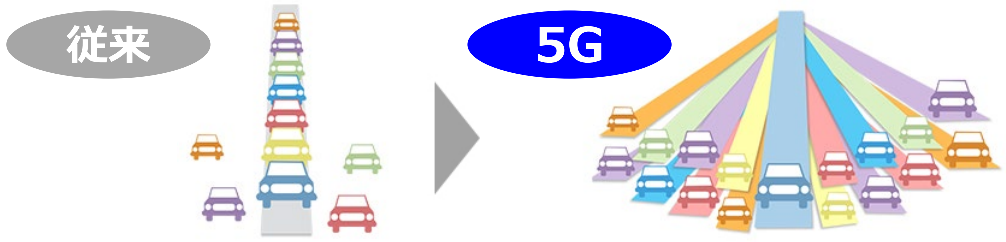
車載貫通
車載ビルド

第1工場　フレキ･EMS

フレキ
龍旗社合弁
IoT/AI家電

1	2019年度上期実績
2	通期見通し
3	**技術ロードマップ**

5G(第五世代移動通信システム)がもたらす変革



ひとりひとりに
専用の電波を割り当てる

出典:ソフトバンクHP

３つの特徴、そして各産業分野で変革

基地局　　サーバー

- ✓ マクロセル/スモールセル増加
- ✓ ビックデータ量 15ZB(記憶容量増加)
- ✓ イーサネット速度 400GbE(光通信増加)

スマートフォン
IoT

- ✓ 従来＋5G通信対応
- ✓ 通信モジュール増加
- ✓ 受動部品増加
- ✓ 高密度プリント配線板

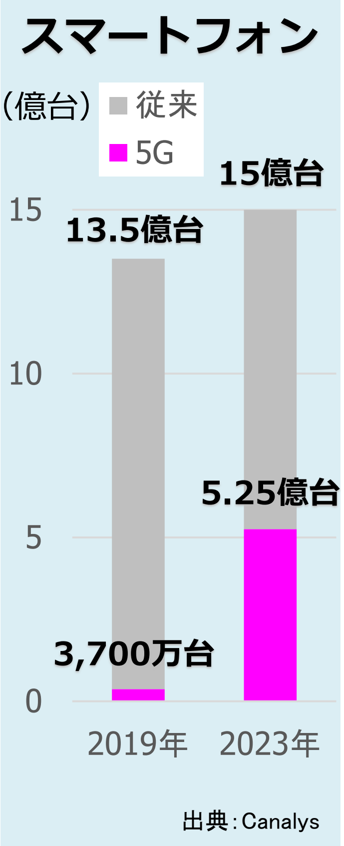
自動車

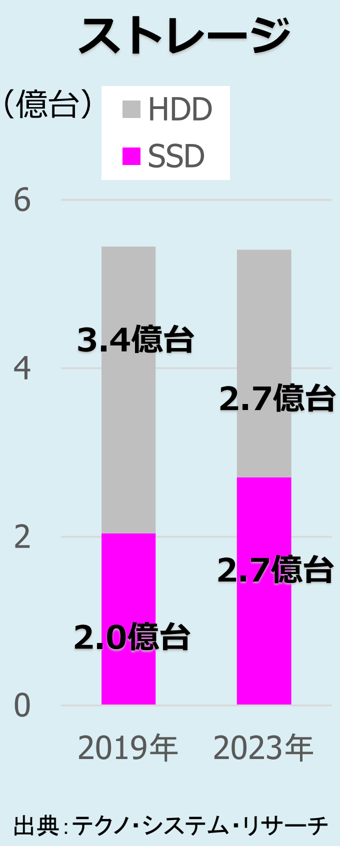
- ✓ 自動運転レベル4加速
- ✓ コネクテッドカー増加
- ✓ 電動化(HV/PHV/EV)加速

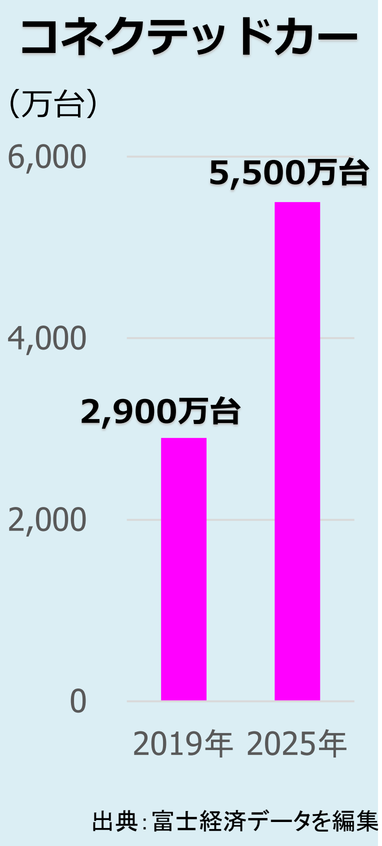
5Gでプリント配線板の新市場が創出され、既存市場が拡大する

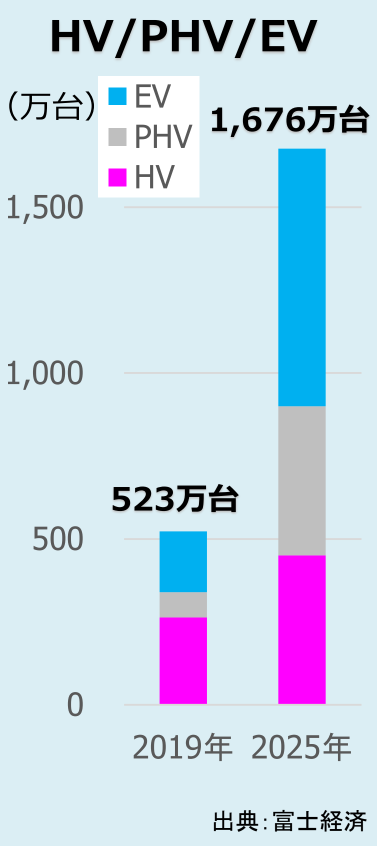
出典:総務省

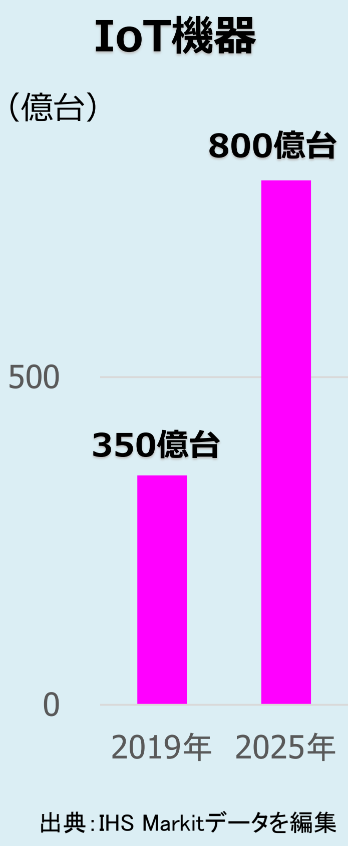
5G分野の市場動向(販売台数)











- ■5Gスマートフォンが本格的に普及、ビックデータ量増加によりSSDが増加
- ■5G対応のコネクテッドカーが増加、HV/PHV/EVが大幅に増加
- ■IoT機器は引き続き堅調に増加
- ■より高密度なビルドアップ基板や車載向け基板の需要が拡大する

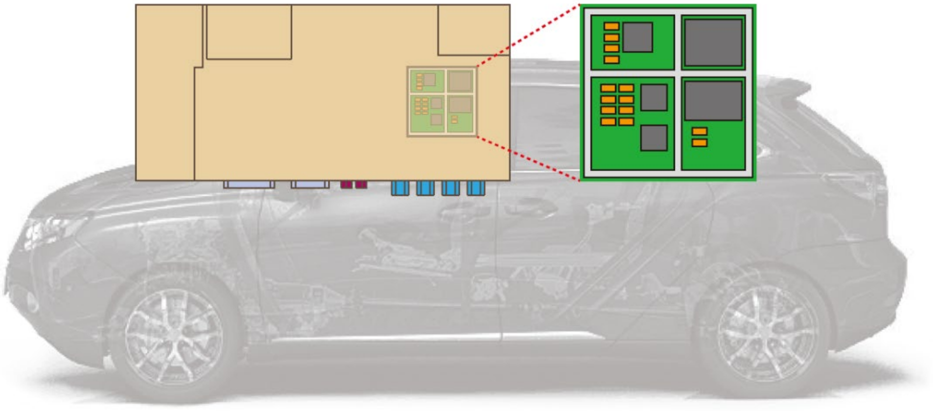
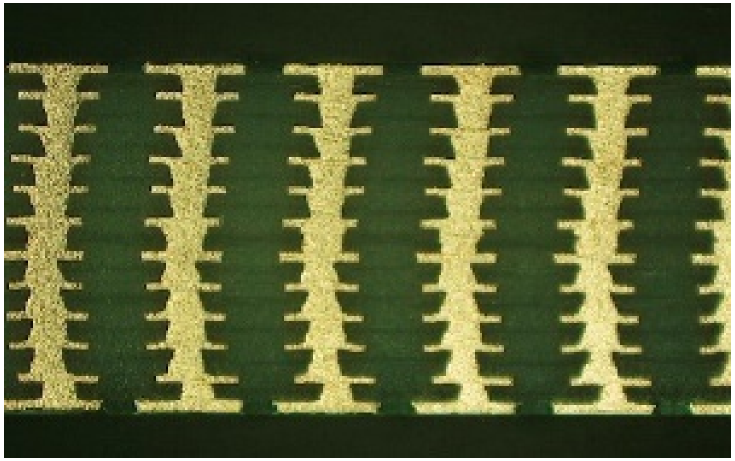
5Gに向けた技術開発ロードマップ

	700MHz	3.6GHz	6GHz	28GHz	ミリ波
通信ｼｽﾃﾑ	従来通信		5G通信		
基地局 サーバー	マクロセル / スモールセル (高多層 高周波基板)		高周波モジュール (高周波基板)		
	サーバーSSD (10層)		データセンターSSD (16層 高周波基板)		
ｽﾏｰﾄﾌｫﾝ IoT	メインボード (L/S=50/50um)		メインボード (MSAP L/S=30/30um⇒25/25um)		
	通信モジュール (L/S=35/35um)		通信モジュール (MSAP L/S=25/25um)		
自動運転 電動化 ｺﾈｸﾃｯﾄﾞｶｰ	ミリ波レーダー (MSAP 高周波基板)		TCU/V2X通信モジュール (12層エニーレイヤー)		
	パワーデバイス (銅インレイ 厚銅基板)		IVI(ｲﾝﾌｫﾃｲﾒﾝﾄ) (3段ビルドアップ)	ビークルコンピュータ (3段ビルドアップ)	
自動運転	レベル2		レベル3		レベル4
	2019年	2020年			2025年

5G分野の開発事例

ユニット	コネクテッドカー向けTCU/V2X通信モジュール
用途	移動通信システムを利用し、自動車とクラウドサーバー、インフラ、他の自動車との双方向通信を行う
特徴	5G通信チップが搭載される高密度プリント配線板

通信モジュール



高密度プリント配線板断面